



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 501号

2016. 12. 10

発行責任者

岸田義典

目次

2016

- 「ASABE 出張報告」、「韓国 KIEMSTA 視察報告」
（株）新農林社 代表取締役社長 岸田義典氏... 2
- EVENTS CALENDER 8

Vol. 11

「ASABE 出張報告」、「韓国 KIEMSTA 視察報告」

(株) 新農林社
代表取締役社長
岸田義典氏

本年 10 月 24 日から 27 日にかけて、南アフリカのケープタウンで ASABE (米国農業生物工学学会) グローバル・フード・セキュリティ会議が行われた。テーマは、「世界の食料安全保障のための工学、科学技術イノベーション」であった。この会議の内容とともに、11 月 2 日から 5 日かけて開催された KIEMSTA (韓国国際農業機械装置科学技術展示会) の視察報告もおこなった。以下に資料を添付する。

ASABE 出張報告

去る 10 月 24 日～27 日、南アフリカ共和国のケープタウン近くのステレンボッシュにおいて ASABE (アメリカ農業生物工学会) グローバルイニシアチブ会議が「世界の食料安全のための科学技術のイノベーション」という表題で行われた。米国からは農業工学部のある主な大学の学部長 8 名、ASABE の現会長及び元会長等が 5 名参加し、アメリカの農業工学研究をリードする主要人物がほとんど集まった。またアフリカ諸国からはアフリカの農業工学の研究・教育を担う主要な人々が集まり、アメリカとアフリカの諸大学、ASABE とアフリカの大学や関連学会との協力を今後どのように展開していったら良いかという戦略的な会議であった。日本からは筆者の他に CIGR (国際農業工学会) 事務局長の梅田幹雄氏が参加した。CIGR からは現会長のタデウス・ジュリスゼウスキ (Tadeusz Juliszewski) 氏が参加した。ASABE は 2012 年から「農業生物工学の世界イニシアチブ」というプロジェクトを始めていて、今後増大する人口の中で食料をどのように確保していくか、そのために ASABE に何ができるか、必要なプロジェクトをどのように推進していくかということが目的である。

- 1 食料生産の生産性を上げること
- 2 食料のロスや無駄を削減すること
- 3 エネルギー利用の効率を上げること
- 4 新しい再生可能エネルギーシステムを開発する

こと

- 5 有限な水資源の保全及び効率的使用を推進すること
 - 6 真水の供給を多方面にわたって確保すること
- などが目的となっている。会議の行われたステレンボッシュはバスコ・ダ・ガマが喜望峰を発見した後ヨーロッパから移住が始まり 17 世紀初めから主にオランダ人が入植して発展した町であり、周辺は山に囲まれてそこにブドウ畑が一面に広がっている大変美しい場所である。醸造所も 50 か所以上ありその内のスフィアという 1962 年にできた醸造所が会議施設や宿泊施設を持っていてそこで会議が行われた。アフリカはアジアの次に大きな可能性を有している大陸であり中国などは非常に意欲的で大きな投資を戦略的に行っている。米国も既にアフリカの大学と教育プログラムや研究プログラムを組んで協力している大学もあるが、この会議を起点にさ



参加者集合写真